

2019年度

看護学校自己点検・自己評価

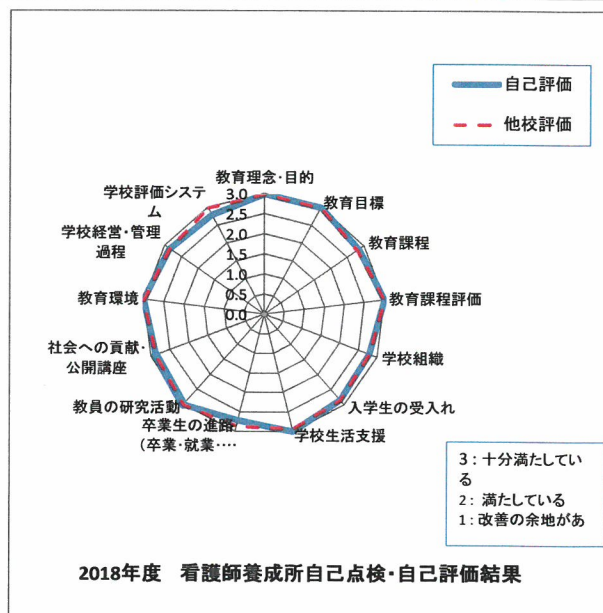
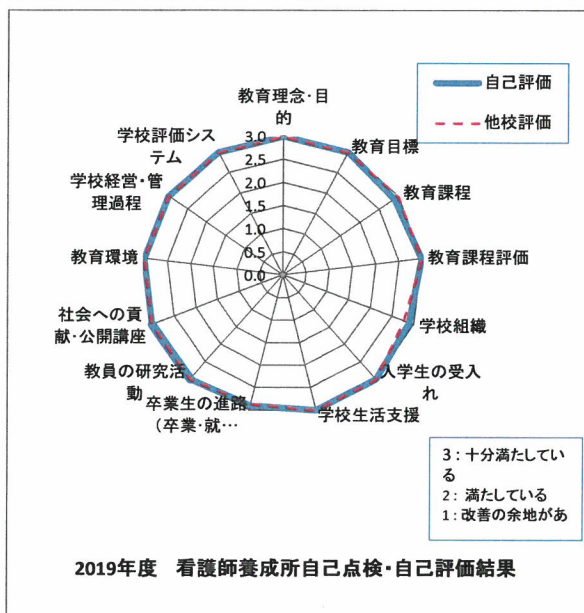
日 時： 2020年2月27日（木）10：00～17：00

場 所： 大阪医療センター附属看護学校 1階会議室

2019年度 自己点検・自己評価結果

- ◎近畿グループ附属看護学校5校での学校相互評価を実施した。
評価は、他校の副学校長1名、教育主事2名、教員3名による書類審査及び当校の教員へのヒヤリングと意見交換。
- ◎高い評価を得た教育活動 4点について
 - ①2022年のカリキュラム改正に向け「改訂カリキュラム検討会議」を開催し、取り組みを開始している。
 - ②院外講師によるの授業評価のシステムをどの学校より早期より取り組み次年度活用されている。
 - ③学生の退学率が低いことは、当校の強みとなっており、学生募集活動に活かせることである。
 - ④専門実践教育訓練給付制度の導入により、社会人入学生の経済面での支援体制が整備されている。
- ◎改善を要する項目 2点について
 - ①会議等で検討したプロセスや結果をよりわかりやすいようにファイリングを工夫すること。
 - ②教員が定員数から2名不足状態。他教員の負担や教育の質を維持のためには組織として定員数確保に努める。今後、評価結果をもとに維持・改善にむけた活動を行う。

カテゴリー	評価の概要	2019年度		2018年度	
		自己評価	近畿グループ附属看護学校相互評価	自己評価	近畿グループ附属看護学校相互評価
I 教育理念・目的	学校の教育理念・教育目的は明文化され、教職員および学生に浸透し、卒業時点での学生像に反映されているか。(6項目)	3.0	3.0	3.0	3.0
II 教育目標	教育理念・目的・教育目標の一貫性および卒業教育との継続性を考慮した目標設定であり、教員・学生が共有できているか。(6項目)	3.0	3.0	3.0	3.0
III 教育課程	教育課程の編成について独自性、整合性、ニーズへの対応などの観点から科目が挙げられているか、講義・実習の内容に妥当性があり、教育の質向上のために工夫し、計画的に進められているか。(26項目)	2.9	3.0	2.8	2.8
IV 教育課程評価	自己および学生による授業評価の実施と改善の取り組み状況について。(6項目)	3.0	3.0	3.0	3.0
V 学校組織	学校の組織体制について人員配置および意思決定システムが適性であるか。(9項目)	2.9	2.8	2.8	2.8
VI 入学生の受入れ	自校の教育理念に基づいた入学選抜試験の適正な運用と実施状況の分析、検証状況について。(5項目)	3.0	3.0	2.8	2.8
VII 学校生活支援	学生の生活支援体制について、健康管理、プライバシー保持、自治会活動、関係者との調整の観点から整備されているか。(15項目)	3.0	3.0	3.0	2.9
VIII 卒業生の進路 (卒業・就業・進学)	卒業時の到達状況、進路、国家試験の合格状況を分析し、教育活動に生かしているか。(7項目)	2.9	2.9	2.7	2.9
IX 教員の研究活動	教員の研究活動の実施状況および支援体制について。(4項目)	3.0	3.0	3.0	3.0
X 社会への貢献・公開講座 (地域交流・国際交流)	公開講座やボランティア等、地域社会のニーズを踏まえた社会貢献、近隣関連施設との情報交換等、地域との交流状況、また、国際的視野をふまえた教育体制等について。(7項目)	3.0	3.0	2.9	2.9
XI 教育環境	施設設備などの学習環境の整備状況について。(7項目)	3.0	3.0	3.0	3.0
XII 学校経営・管理過程	教育活動について将来構想をもとに計画的に管理・運営しているかについて。(7項目)	3.0	3.0	2.9	2.9
XIII 学校評価システム	自己点検・自己評価システムの整備状況や運用について。(5項目)	3.0	3.0	2.8	3.0



2019年度全国国立病院附属看護学校副学校長・教育主事協議会近畿支部 学校評価

学校名	独立行政法人国立病院機構 大阪医療センター附属看護学校	
日時	2020年 2月 27日 (木)	
評価担当者	大阪南医療センター附属大阪南学校 副学校長 大阪南医療センター附属大阪南学校 教育主事 大阪南医療センター附属大阪南学校 教員	京都医療センター附属京都看護助産学校 教育主事 京都医療センター附属京都看護助産学校 教員 舞鶴医療センター附属看護学校 教員

【学校相互評価の総合評価】

評価項目	具体的内容
教育理念 目的	教育理念に明記されている主体的・積極的な行動を、学生の自治会活動という機会を通して、育成されている。自主的な学生の活動により、学生に浸透が図られていることが分かる。
教育課程	カリキュラム改正を見越してカリキュラム検討会議を立上げ検討されている。また時間割調整会議や学年ミーティング、教員会議等により、現行カリキュラムの見直しが行われている。それぞれの担当者・担当会議での検討内容は教員会議で周知されているとのことであるが、各会議の活動内容や検討内容等の資料・議事録がファイリングされていないものもあった。各担当での検討プロセスや結果をわかりやすく整理されることが望まれる。 教育の工夫として、実習オリエンテーションを実技型にされるなどの様々な取り組みがみられる。実施結果や評価に関してまとめられるとさらに良い。 学生のレディネスを指導者に把握していただく取り組みにより、実習でのインシデントが防止できているという成果がある。
学校組織	院外講師の自己評価等を次年度の教育に反映させるシステムが構築されているのは、授業評価における自己評価をどの学校よりも早期に取り組みされた成果であり評価できる。今後も継続して取り組んでいただきたい。前年度の学校間相互評価において修正の指摘を受けていた「組織図に実習調整者を明記する」「規程（学校運営会議、教員会議）の構成員と概況書の会議に関する構成員に齟齬がある」に関しては修正されていないため、修正をお願いする。 教員が2名不足している状況がある。教育の質の維持において早期に是正する必要がある。
学校生活 支援	学生が活用しやすい連絡体制としてのフェアキャストについては、学生便覧にも記載し活用しやすい状況を作られている。今後は、活用頻度などの実績を残され評価されるとなおよい。 インターンシップの参加状況や就職などの進路指導に関する記録を整理しておくという前年度の評価を受け、インターンシップ・面接記録・受験結果等、内容ごとに記録を整理されている。今後は学生一人ずつの進路指導の経過が追えるようなファイリング方法も検討されるとよい。 学校関係者評価委員会資料から退学率が低いことがわかる。退学者が少ないという強みを今後の保護者説明会やオープンキャンパスなどの学生募集活動に活用し、教育支援体制が整っていることをさらにPRしてもよいと考える。 専門実践教育訓練給付金制度をいち早く導入され社会人入学者の経済面での支援体制を整備されたことが、受験生の増加につながっている。
学校評価 システム	自己点検・自己評価委員会の規程では、委員会を2回/年実施することとなっている。自己点検・自己評価については中間評価と最終評価を教員会議で実施しているが、委員会としての開催は3月のみと見受けられた。6月の実施も実績として明記されるとよい。
総 評	教員が2名不足している状況がある。教育の質を維持するためにも必要人員の確保は重要な課題である。学校運営や教育支援体制など全般的に様々な新たな取り組みがなされ、教育の質向上に向け努力されていることがわかる。その取り組みにおけるプロセスや結果などの成果をわかりやすく整理され今後の教育に活かすと共に、他4校の参考となるよう情報提供・情報発信を続けていただきたい。